

# 感性と 心のゆとり



愛知県立岡崎養護学校長

小川 利雄 氏

教育随想

# 岡崎の教育 月報



平成15年5月1日

## 5月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
愛知県立岡崎養護学校長 小川 利雄氏	
この人に聞く	2
岡崎市芸術文化行事運営委員 浅井 克彦氏	
羅針盤	2
図工・美術科指導員 鈴木 孝司	
ふれあい	3
矢作北小 原田 帆波 美川中 八木 規之	
特集	4
のぞいてみよう自作ビデオ作品	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
姉妹校締結(昭和47年)	
この本を	8

私は、昨年の五月より歯科に通院をしました。歯の治療は、ベッドに横になり、口を開けると同時に、要求や苦痛などを言葉により伝えることがほとんどできませんし、治療中は、目を閉じるために大変不安な心境に陥ります。

私が通院した歯科は、このような患者の心理状態を理解し、治療中の表情・時間の経過などから苦痛を早めに察知し対応されます。また、治療計画・方法も説明が十分なされ身を預ける者には安心感があり、歯科医の感性の豊かさを感じます。

この治療を通して、私が現在携わっている、肢体不自由教育に通じる類似点があることを思います。

本校に通学している児童生徒の多くは、障害のために自分の欲求・苦

痛、出来事などを言葉によって、うまく伝えることができなないので、教員は心理的な安定が満たされているか、また、保護者には、子供の学習計画・方法が十分に理解されているかなどに大変配慮を要します。

そのため、教員は、児童生徒の心理状態の安定を図るために、各自の感性、経験などを最大限に生かして、欲求、不快などの言葉によらない訴えを把握します。

この時、教員が感性をどのよう

に働かせて、児童生徒に対峙するかが大きな課題と思います。

この感性を養うための具体案を示すことは、大変難しいことですが、教員一人一人が、心のゆとりと広い視野を養うとともに、児童生徒の微細な反応を捉えようとする前向きな姿勢を常に持つことが感性を豊かにすることにつながると考えます。

この感性と心のゆとりは、障害のない児童生徒の教育についても共通するものと思います。

(おがわ としお)



# この人に聞く

ふるさとシリーズ



## 『浄瑠璃姫の物語』の演出

岡崎市芸術文化行事運営委員

浅井 克彦 氏

「人物の感情が演技に出るように。あくまでも自然に、自然に、です。」  
 けいこ場に入ると、浅井さんの落ち着いた指導の声を耳にした。岡崎市初の市民参加型創作劇『浄瑠璃姫の物語』の上演に向けて、猛げいこの最中であつた。演出家というと、メガホンを片手に大声を張り上げている人を想像しがちである。しかし浅井さんは、穏やかに柔らかな声で出演者に指導をされている。

演出という仕事について、浅井さんは、次のように語られた。



「まず、ストーリーからイメージされる内的なものを大切にします。そしてそれをいかに表現させるか、クリエイティブなものが、演出の仕事だと思っています。技術的なものを追ってはいけません。また、演出の指導は、急いではいけません。」  
 続いて『浄瑠璃姫の物語』を演出する中でのご苦労を次のように語られた。

「オーデイションで集まった方々のキャリアは多種多様でした。高校、大学と音楽を勉強してきた新進のソリスト。地域の劇団で俳優をやっている方。子育てが一段落した元音楽家のお母さん。この落差をどのように埋め合わせるのか、大いに不安がありました。しかし、人形浄瑠璃の

専門家を招いて指導を求めるなど、スタッフの方々の細やかな配慮のおかげで見通しのできるものとなりました。けいこ日は、金、土、日の週三日と、かなりハードなものでしたが、やりがいのある充実したものでした。」

更に『浄瑠璃姫の物語』に話が及ぶと、

「伝説の浄瑠璃姫が亡くなって八十余年、彼女は、『浄瑠璃』というロマンあふれる歌曲を残しました。昨年は、岡崎で資料展、薄墨の笛に因んでの演奏会、姫にあやかっつて全国呉服サミットと続きました。そして今年には、私どもが市民音楽劇として『浄瑠璃姫』を上演します。姫が『浄瑠璃』を残したように、わたしたちの作る『姫』が行政と市民の架け橋として足跡を残すことができましたら素晴らしいことだと思います」と、熱く語られた。

三月三十日、市民会館では、市民と行政が一体となった『浄瑠璃姫の物語』が、クリエイティブな演出を基に華やかな舞台として上演された。

氏名 あさい かつひこ  
 生年月日 昭和六年五月二十二日  
 住所 元欠町三十一—三

## 子どもの思いから始めよう

図工・美術科指導員

鈴木 孝 司



A 小学校の飼育小屋は老朽化が進み、ベルマーク活動で新しく建て直すことが決まっていた。しかし、ふとしたきっかけから、担任のB先生は、五年生の子どもたちが現在の飼育小屋に並々ならぬ愛着を持っていることを知る。後日B先生が教室でこの話題を出したとたん、子どもたちは目を輝かせながら、

「ウサギ小屋にベンチを作ろうよ。」  
 「世話のしやすいえさ箱に改造しようよ。」

と、様々なアイデアを出し始めた。これはまさに、学校環境の一部を自分たちの手で創り上げてみたいという強い造形への意欲が表出した瞬間であり、同時に子どもたちにとっての壮大な試みの出発点となったのである。この思いを、B先生は真正面

## 思いやりに包まれて

矢作北小 原田 帆波

「最後の学芸会、楽しかった。全員できてよかったね。いい思い出をありがとうございました。」

三学期、学芸会に向けて劇の練習が始まった。限られた短い時間。全員でアイデアを出し合い踊りを考える。放課に友達同士で振付を見合う姿が見られるようになった。見る度に少しずつその子にしか見られない持ち味が生まれてくる。新しい言い回しや動きを考えてくる度に、クラス全員で笑ったりコメントしたり…。

しばらく入院し、松葉杖で学校に戻ってきたA男は、台本読みは一緒に行ったものの劇に出ることを嫌がった。久々の学校、生活のリズムにも慣れず、学校も休みがちだった。「A男君も一緒に、みんなに参加



したいね。どうしたらいいかな」子供たちに呼びかけ、共に考えた。

「松葉杖だから、疲れるんじゃないよ」練習中に台を運んだり、A男が出る際は転ばないように支えたり、A男を思いやる言動が表れた。

楽しい雰囲気と思いやりに包まれ、A男の欠席は減った。私自身、こんなに楽しい劇の練習は初めてだった。そして本番、冒頭の日記のように全員で一つの劇と、いい思い出を作ることができた。



## 三人の転入生

美川中 八木 規之

三人の中国からの転入生。異国での不安を抱えながらも、毎日元気に、そして、笑顔で過ごしている。そんな彼らと一緒に生活していると「はっ」とさせられることがある。

二学期保護者会でのA男の言葉、「日本語、伝わる、うれしい。聞いてくれる友達、いる、うれしい。」難しい日本語を使って、相手に伝えられた喜びを感じているA男に何も声をかけてやれていなかった。子ども

もの気持ちに鈍感であったことを淋しく思った。

三学期末、B男のノートの言葉、「友達ほしい。楽しい友達ほしい。」



日本語をたくさん覚えさせようと躍起になっている自分に気付いた。今、彼に本当に必要なものは何なのか、考えさせてくれた。

笑顔で私に話したC子の言葉、「先生、今日、顔、怖いよ。」

怖い顔で、一体何を教えることができるのだろうか。子どもとの間に大きな壁を自分で作っていたのだ。この三人からは教えられることばかり。子どもと共に成長していこうと決意した新任の頃にもう一度戻って、今、目の前にいる子どもたちと生活していきたい。

から受け止め、早速生きた図工の題材として指導計画を立てていった。

子どもたちの活動は、B先生の子想を超えたアイデアと積極性で進んだのだが、もちろん、すべてがとんとん拍子で完成に至ったわけではなかった。技術・材料・時間的制約が子どもたちの前に立ちはだかった。だが、ここでもB先生は敢然と雑多な問題に立ち向かったのである。ゲストティーチャーを招くことにより技術を習得させ、総合学習の時間を利用することで時間を生み出し、福祉の学習課題づくりへと発展させた。結果として、子どもたちの思いや願いがたっぷり詰まった飼育小屋が完成したのは言うまでもない。

一年間でたった一つの題材でよい。B先生のように『子どもの思いから出発する題材』、『表現せずにはいられない、心の底から沸き起こる造形への意欲を呼び覚ます題材』を見つけてほしい。それは決して難しいことではないと思う。必要なのは、日々の子どもたちの思いを受け止める温かい心、ほんの少しの先生のチャレンジ精神ではなからうか。そして、こんな題材から生まれた作品こそが、子どもたちにとって一生の宝物になるに違いない。

# のぞいてみよう自作ビデオ作品



## 岡崎市の貴重な財産

岡崎市には、たくさんの先生方が長い時間をかけて作り上げてきた、貴重な財産がいくつもある。自作ビデオ作品もそのひとつである。

自作ビデオ作品制作の裏側には、社会科部・理科部・英語部と学習情報部の先生から構成されたプロジェクトチームの大変な努力がある。わずか十分あまりの作品のために、一〇〇時間から一五〇時間の共同作業を経てようやく完成する。膨大な時間を必要とするため、班員の苦労は大きい。

自作ビデオ作品制作の目標は、他では取材できない地域性のあるものを扱うことにある。地域に密着し、より深い部分まで迫りたい。

地域で制作された自主教材を用いることで、郷土である「岡崎」を見つめるきっかけとなり、自分たちの生活に密接している生きた知識を得ることも役立つ。

岡崎の自作ビデオ作品は、内容が濃いだけでなく映像や音声の表現にも工夫が見られる。現在までに約二〇〇本余りの作品が制作され、毎年県や国のコンクールで上位入賞を果たしている。さらに平成十三年度より、コンピュータを活用したマルチメディア作品にも取り組んでいる。

こうした素晴らしい自作ビデオ作品も、実際に授業で使ってもらえなければ価値がない。そのため自主制作された作品はダビングして、市内の小中学校すべてに配付され、使いやすいように「自作ビデオ活用事例」(想定指導案)が添付されている。この手軽で貴重な財産を、ぜひ有効活用していただきたい。



▲ 視聴覚ライブラリーに保管される知的財産



▲ 自作ビデオ作品を活用した地域の調べ学習

制作時期	制作内容	制作時間
5月初旬	自作教材制作委員会にて題材の検討	約15時間
5月中旬	班で計画を立案し事前調査	
5月下旬	自作教材制作委員会にて各班のプロット検討	
6月から7月中旬	それぞれのプロットの再検討とコンテの完成	約70時間
7月中旬	撮影と仮編集の日程調整	
7月から8月下旬	現場での撮影とライブラリーでの仮編集作業	
9月初旬	自作教材制作委員会にて仮編集作品の検討	約40時間
9月から11月下旬	ライブラリーにて本編集作業	
11月下旬	自作教材制作委員会にて本編集作品検討	
12月	本編集を修正し自作ビデオ作品の完成	
3月以降	新しい自作ビデオ作品の紹介・配布	合計 約125時間

自作ビデオ作品ができるまで



▲ 専門的な機械とたくさんの時間を必要とする編集作業



▲ ビデオをDVDに移行し教育チャンネルに配信するデジタルライブラリーシステム



炎天下にも負けず回し続けるカメラ▶

<b>全国自作視聴覚教材コンクール文部科学大臣賞（文部大臣賞）受賞作品</b>	
<b>個人制作による受賞作品</b>	
昭和60年「鳥が自然に」	小5理科（15分）
昭和61年「オイカワの夏」	小4理科（12分）
<b>自作教材制作委員会による受賞作品</b>	
平成3年「松くい虫を追って」	中3理科（13分）
平成5年「和算」	一般（15分）
平成6年「三河湾のクルマエビ漁」	小5社会（11分）
「ゲンジボタルの里」	中3理科（12分）
平成7年「矢作川の砂～砂の生い立ちを求めて～」	中3理科（10分）
平成8年「知られざる大地震～三河地震を探る～」	中3理科（11分）
平成9年「線香花火～指先に願いを込めて～」	中2社会（12分）
「ササユリの里を守る」	一般（13分）
平成13年「変わりゆく川の生態系」	中3理科（15分）



▲ 最高の映像をねらう撮影現場



● 教育最新情報

○地震に対する心構え

今やいつ起きてもおかしくないと言われている東海地震。地震発生の前兆をとらえるための観測網が整備され、事前に予知できる可能性があると考えられている。予知がされた時点で、各種の防災措置を講じれば、被害を大幅に軽減できると考えられる。

学校においても、日ごろから児童生徒の安全確保を第一に考慮した対応策を工夫しておく必要がある、すでに小中学校では、避難訓練をはじめ、各種の整備がなされている。そこで、市が行ってきた安全管理体制の強化と、それを受けて各学校がどう取り組んできたかを、梅園小学校の例で紹介したい。



市の体制づくり

市では、平成十四年度に、地震等の防災に対応するための防災指導計画書の見直しをするように依頼した。主要内容は次の通りである。

- 判定会議招集時対応と保護者への引き渡し
- 地震対策計画（教職員の研修、園児・児童生徒に対する指導）
- 防災訓練計画の作成
- 施設、設備の整備
- 避難マニュアルの作成

特に、避難マニュアルでは、園児・児童生徒が様々な場所にいることを想定して作成された。

地震に備える

学校では、現状に合わせて地震防災計画を整備していることはもちろん、大規模な地震に関わる避難訓練を年一回

以上行っている。また、教育委員会は、啓発活動として、「大きな地震にそなえる」というパンフレットを配布した。これは判定会が開かれてからどう対応すればよいか、地震が発生したらどうするかなどイラストを中心に分かりやすく説明したものである。こうした対策をもとに、各小中学校では、防災訓練をはじめ様々な活動がなされている。

梅園小学校の取組

梅園小学校では、今年の上旬、「梅園小学校防災教育参観」が行われた。午後二時から体育館で、PTA会長、梅



園学区消防団長あいさつに続き、梅園小学校の防災教育の取組が発表された。

その後、放課時を想定した地震に対する避難訓練が行われた。

訓練後には、教室に戻り、「防災学習授業参観」があり、学年に応じたテーマで学習が深められた。

【各学年のテーマ】

- 一・二年、六・七組 ○地震のときの体の守り方
- 三・四年 ○地震のときの逃げ方
- 五・六年 ○家の人との約束
- 通学班のリーダーとして
- 家族を守るために

授業参観後、地震予判定会が招集されたことを前提とした児童引き渡しの訓練が行われた。七百名を越す児童を抱える学校にもかかわらず、引き渡しは概ね順調に行われ、保護者の方の防災に対する意識の高さがうかがわれた。下校時にも、保護者と一緒

を利用して危険箇所や避難できる場所、交通事情を確認するなど、二時間余りの時間が大変有効に活用された。



参加された保護者の声として、「家でも訓練の必要性を感じた」「子どもを学校に預ける者として、安心感を覚えたい」「地域ぐるみでの取組の大切さがわかった」など防災意識と命を守ることの大切さについての感想が多く寄せられた。

平成十五年度には、こうした避難訓練が市内各学校で実施される予定である。



◆平成十五年度校長会役員

〈小中学校長会役員〉

会長 藤田吉信 (六ツ美中)  
副会長 杉浦博司 (連尺小)

牧野好博 (美川中)  
本多有三 (矢作東小)

顧問 青木宏氏 (梅園小)  
会計監査 名倉昭人 (男川小)

庶務 梶尾長夫 (甲山中)  
石原博文 (城南小)

庶務 平野有行 (竜海中)  
菅沼 剛 (東海中)

会計 兼平義文 (矢作北小)  
河合好文 (南 中)

会計補佐 江村 力 (大樹寺小)  
評議員 上川清玄 (矢作西小)

富田勝男 (北野小)  
丹沢英喜 (常磐小)

中根久治 (六南小)  
渡辺勝英 (六西小)

鴨下智幸 (福岡小)  
金子一元 (小豆坂小)

永田邦雄 (根石小)  
浅井 稔 (六名小)

鈴木 忍 (矢作中)  
金澤 強 (常磐中)

〈小学校長会〉

会長 杉浦博司 (連尺小)  
副会長 本多有三 (矢作東小)

石原博文 (城南小)  
名倉昭人 (男川小)

庶務 鴨下智幸 (福岡小)  
会計 兼平義文 (矢作北小)

庶務 梶尾長夫 (甲山中)  
〈中学校長会〉

会長 牧野好博 (美川中)  
副会長 平野有行 (竜海中)

庶務 菅沼 剛 (東海中)  
会計補佐 鈴木 忍 (矢作中)

会計 河合好文 (南 中)  
会計補佐 石原雅充 (竜南中)

〈専門委員会委員長〉  
法制 長坂正延 (葵 中)

理財 鈴木 忍 (矢作中)  
給与 金子一元 (小豆坂小)

文教 河村喜美 (城北中)  
進路 河合好文 (南 中)

研修 江村 力 (大樹寺小)  
保体 浅井昭二 (岩津中)

福安 兼平義文 (矢作北小)

鈴木育男 (六美北中)

千賀敏之 (福岡中)

石原雅充 (竜南中)

長坂正延 (葵 中)

◆平成十五年度研究発表表

●六月十七日 竜海中学校

「自ら学ぶ力を高める生徒の育成—教科学習を中心に—」

●六月二十四日 本宿小学校

「自己を正しく見つめ、生き生きと歩む子供の育成—健康教育(喫煙・飲酒・薬物乱用防止)を核として—」

美川中学校

「生涯にわたり心身ともに健康で、輝いて生きる生徒の育成—健康教育(命の学習、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育)を核として—」

●十月三日 六美西部小学校

「自ら学び、心豊かで活力あふる子の育成」

●十一月二十日

生活科全国大会授業・分科会

「気づき 深め 表現できる子の育成」 岡崎小学校

「ふれあい 学び合い 高め合う子」 三島小学校

「聴きあい 学びあい 高めあう授業を求めて」 連尺小学校

「発見・理解・発信できる城南っ子の育成」 城南小学校

十一月二十一日

生活科全国大会全体会

岡崎市民会館

「自らの生活を切り拓く子ども—かわり、気付きを広げ深める生活科の授業—」

紙上発表

「気づき 考え 実行する美合っ子の育成」 美合小学校

◆平成十五年度教育委員学校訪問

●五月八日 緑丘小学校

●五月二十二日 大樹寺小学校

●六月十九日 矢作北小学校

●九月十八日 六美南部小学校

●九月二十五日 福岡中学校

●十月二日 岩津小学校

●十月九日 新香山中学校

●十月三十日 矢作東小学校

◆平成十五年度県教委教職員課訪問

●十一月七日 美合小学校

●十一月七日 広幡小学校

\*その他に主事訪問を予定しています。

◆平成十五年度特別委員会

●市民大学運営委員会

●月報「岡崎の教育」編集委員会

●教員の研修に関する委員会

●教育課程研究委員会

●学校環境緑化推進委員会

●野外活動委員会

●情報教育推進委員会

●行事・部活動研究委員会

●学校週五日制研究委員会

●特色ある学校づくり委員会

●郷土読本編集委員会



▲現職教育委員会総会 (竜海中 4月14日)



昭和四十六年、岡崎市が広島県福山市と親善都市の提携をした。

これを受けて、昭和四十七年八月に井田小学校と福山市立鞆つるま小学校との間に姉妹校の締結がなされた。

以来、毎年、児童・職員・PTAの代表が、相互に訪問して交流を続けている。写真は締結式の様子である。

姉妹校締結した学校では訪問や作品交換、インターネットによる文通など様々な形で交流を図っている。それらの活動は学校の代表であると同時に、岡崎市の代表でもあるという自覚と誇りを持つての活動である。

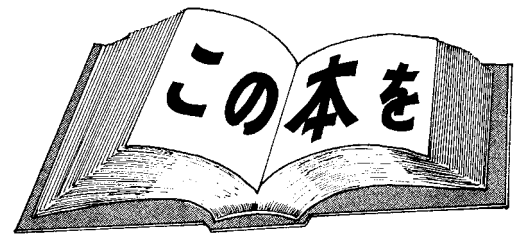


### 姉妹校締結

(昭和47年)

写真提供：井田小学校

・題 字 岡崎市教育長 藤井孝弘  
 ・タイトルバック 福岡中 安藤眞樹  
 ・カット 矢作中 畔柳とも子



- \* 天涯の船 (上) (下) 玉岡かおる 新潮社 ¥1600
- \* ブレイブ・ストーリー 宮部みゆき 角川書店 ¥1800
- \* 星々の舟 村山 由佳 文藝春秋 ¥1600
- \* 教えることの複雑 大村 はま他 ちくま新書 ¥720

- \* 美女の教科書 I・II 斎藤 薫 各¥1500

人を褒めると「癒し効果」がある。これが全編を支える理論。「ただの水も、効くと思えば効いてしまう」とまあ、こんな調子。これを美容アナリストが堂々とやっている。ただそこには、ちゃんとした科学的な裏付けが施されていて、暗示の効果との両面から語られているところに説得力があり、「ピグマリオン効果」は確かなのだと納得してしまう。

これはもう総ての女性に、いや男性にもお薦めしたい。「思い込み」で、何にでも挑戦したくなってしまう。

男の子の誕生をアピールする鯉のぼり。蒼天を優雅に舞う姿は、なんとも頼もしい。やがては竜になることを願う親の思いは、五月の空を美しく彩っている。この青空に、もつと多くの鯉が泳ぎ、たくさんの竜が育つて欲しいと願う。立派な竜を育てる使命を忘れてはならない。

## シオ スア

「失敗を恐れずに挑戦しよう」という級訓を作つて、一か月がたった。しかし、子供たちの動きは芳しくない。言葉で語るのは簡単だが、友達の失敗を温かく見守る学級の雰囲気作りには欠けていた。教師自身も、再度挑戦。子供たちの意気が揚がるよう、根気強く働きかけていきたい。

暗示をかけるかのように、一言一言重みのある言葉で演技指導される浅井さん。出演者に場面を想像させ、動作を考えさせ、じつと待つ。その佇まいたたずに迫力さえ感じず、多くの肩書きを持ち、どの一つも手を抜かない。精力的に活躍されている姿を見習いたい。

スイトピーが風に揺れ、新緑が輝く五月。新一年生の下校指導を終えての帰り道、名も知れぬ雑草の香りさえ心地よい。時には雑事に追われる日常から抜け出し、自然を満喫したい。子供の豊かな感性を育むために、教師自身も日々心豊かでありたい。